会　議　録

会　議　名	令和４年度第２回小金井市史編さん委員会		
事　務　局	生涯学習課　文化財係		
開催日時	令和４年１０月３１日（月）午後２時から午後３時１５分		
開催場所	小金井市役所　暫定第３会議室		
出席委員	根岸委員長　牛米委員　中嶋委員　井上委員　大熊委員		
欠席委員	日高委員　小澤委員		
事務局員	関生涯学習課長　碓井文化財係長　髙木主任（学芸員）		
傍聴の可否	可	傍聴者数	０名
傍聴不可・一部不可の場合は、その理由			
	１　第６期市史編さん委員会委員委嘱状交付 ２　委員長、副委員長の互選 ３　議　題 ⑴　令和５年度以降の事業計画について ア　今後の事業展開について イ　市民協力員及び調査員の活動について ⑵　古文書調査及び市史編さん資料集について ４　報告事項 ⑴　梶家文書の寄託について ⑵　多摩郷土誌フェアについて ⑶　No.２２遺跡の現場説明会について ５　その他 ６　次回の会議日程		

会　議　結　果

関生涯学習課長　定刻前ではございますが、ご予定されている方、皆さんお揃いですので、始めさせていただきたいと思います。

本日はお忙しいところ、お集まりいただきまして、ありがとうございます。ただいまから令和４年度第２回市史編さん委員会を開催いたします。

なお、本日は、日高委員より欠席の連絡をいただいております。また、小澤委員、小澤副市長につきましては、本日、議会対応につき、欠席させていただいているところでございます。

また、本日、会場が急遽変更となりましてこの場所となりましたことをお詫び申し上げたいと思います。

それでは、議題に先立ちまして、本日の配付物の確認をさせていただきたいと思います。

碓井文化財係長　それでは、本日の配付物の確認をさせていただきます。本日は、第６期の初めての委員会ということになりますので、委員の皆様、お席に委嘱状を置かせていただいてございます。

本日の資料につきましては、令和４年度第２回市史編さん委員会次第、市史編さん委員会委員名簿、参考資料といたしまして、自治体史編さんにおける関連刊行物参考例、以上になります。

また、補足資料といたしまして、こちら、小金井市No.２２遺跡現場見学会、秋の文化財イベント情報、東京の文化財、以上になります。

１　第６期市史編さん委員委嘱状交付

関生涯学習課長　なお、本日は第６期の委員会の第１回目の会議となりますので、まず初めに委嘱状の交付をさせていただきたいと思います。なお、本日は、時間等の都合で机上交付にて代えさせていただきたいと思いますので、何卒ご了承いただきたいと思います。

任期につきましては、令和４年８月２０日から令和７年８月１９日までの３年間となります。なお、第６期の選任に当たりましては、事前に事務局から皆様にご意向を確認させていただきまして、本日の委嘱状の配付とさせていただきました。

何卒、第６期におかれましてもご指導いただきたいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

続きましては、簡単に自己紹介をお願いしたいと思います。根岸委員から、よろしくお願いします。

根　岸　委　員　根岸でございます。よろしくお願いします。

もう５０年近く前、四十五、六前でしょうか、大学院の頃から、伊藤好一先生の助手として、小金井の古文書調査をやっておりまして、その後、この市史にも参加することになりました。長くやっていますけれども、やはり色々な資料を見るたびに、新しい発見がありますので、そういうものを、さらに市史の中で活用できればいいと思っております。よろしくお願いします。

関生涯学習課長　牛米委員、よろしくお願いいたします。

牛米委員　牛米でございます。

今年の３月に、今まで勤務しておりました税務大学校租税史料室を退職いたしました。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

関生涯学習課長　中嶋委員、よろしくお願いいたします。

中嶋委員　中嶋でございます。

早稲田大学の非常勤講師を今年の３月に辞め、現在は、早稲田大学の非常勤嘱託という立場でございます。またよろしくお願いいたします。

関生涯学習課長　井上委員、よろしくお願いいたします。

井上委員　井上恵美子でございます。

私は、小金井市在住の市民という立場でここに参加させていただいています。

長期間にわたりお世話になっているので、発掘現場の視察に行かせていただくなど、貴重な経験をさせていただいています。もう少しお役に立てれば、と考えておりますのでよろしくお願いいたします。

関生涯学習課長　教育長、ご挨拶お願いします。

大熊委員　小金井市教育委員会、教育長の大熊と申します。

先生方には、市史の編さんに関してご尽力いただきまして誠にありがとうございます。小金井市史が大分できてきております。小金井の市史って一体何だろうか、と考えますと、市史と言われるものはいわゆるタイムマシンであるというふうに考えますが、単に過去を遡るタイムマシンではなくて、過去をしっかり知ることが未来の足場にもなる、と考えております。市史編さんの際に目を通させていただきましたが、そういうことをしっかり頭に入れていくと、これから小金井はどちらの方向に進んでいったらいいのかというのがよく分かったというのが実感です。

それから、先日発掘されました平代坂遺跡についても、なぜ小金井にあのような形のものがあるのかというふうに考えたとき、小金井がこれからどういうふうに進んでいくべきか、つまり、昔からここには人が集まる場所だった、ということをふまえ、また、新たな小金井の歴史を作っていくべきでは、と、考えております。何よりも、そういう市史をしっかりつくり上げることが未来の羅針盤になると考えますので、先生方、どうかお力をお貸ししていただければというふうに思いますので、どうかよろしくお願いいたします。

以上でございます。

関生涯学習課長　ありがとうございます。

改めて、事務局の紹介をさせていただきます。生涯学習課長、関と申します。改めまして、よろしくお願いします。

碓井文化財係長　同じく文化財係長の碓井と申します。改めまして、よろしくお願いいたします。

高木主任（学芸員）　高木です。よろしくお願いします。

関生涯学習課長　これからもどうぞよろしくお願いいたします。

２　委員長、副委員長の互選

関生涯学習課長　それでは、続きまして、第６期の委員長、副委員長の選任ということになります。小金井市史編さん条例第５条に委員の中から互選するとなってございます。

まず、委員長ですが、推薦によりたいと思いますが、どなたか推薦をお願いいたします。

大熊委員　根岸さんにやっていただかないと。

関生涯学習課長　今、根岸委員ということで、引き続きというお声がありましたけれども、皆様、いかがでしょうか？よろしいでしょうか？

委員全員　（異議なし）

関生涯学習課長　では、根岸委員長、また第６期もご指導いただきたいと思います。どうぞよろしくお願いいたしたいと思います。

根岸委員長　よろしくお願いします。

関生涯学習課長　それでは、今、委員長が決まりましたので、ここからの議事進行は根岸委員長にお願いしたいと思います。委員長、よろしくお願いいたします。

根岸委員長　次に副委員長の選任になるかと思いますが、これも委員の互選になるかと思いますがいかがでしょうか。

牛込先生にお願いするということでいかがでしょうか？

委員全員　（異議なし）

牛米委員　よろしくお願いします。

２　議題

⑴　令和５年度以降の事業計画について

ア　今後の事業展開について

イ　市民協力員及び調査員の活動について

根岸委員長　それでは、議題に入ります。⑴の、まず、令和５年度以降の事業計画について、説明を事務局のほうからお願いします。

碓井文化財係長　それでは、まず、今後の事業展開につきまして、私のほうからご説明をさせていただきます。

昨年度、第２回の委員会におきまして、令和４年度以降の小金井市史関連刊行物計画につきまして議題とさせていただきましたが、その際に委員の皆様より様々なご意見を頂戴し、今後の事業展開につきまして、事務局内で再調整の上、ご提示させていただくというお話であったかと認識しております。その後、少し長くお時間をいただきましたが、過日、１０月２５日火曜日に開催させていただきました編集委員会議の場におきまして、本日、資料としてお配りさせていただいております自治体史における簡易版、副読本、補足資料などとして発行されている刊行物の他自治体における事例をご提示させていただき、本市として、今後、どのような刊行物を作成していくべきかにつきまして、委員の皆様にご意見を頂戴いたしました。

そして、その際に、委員の皆様よりお頂戴したご意見も参考にさせて

いただき、事務局といたしましては、令和５年度より、ビジュアル的な見やすさ、子ども目線での分かりやすさを兼ね備えた市史のダイジェスト版の作成作業を開始させていただきたいと考えております。なお、作成作業を行わせていただく際の体制の検討や課題の洗い出し、具体的な作成スケジュール等につきましては、今後、年度内の編集委員会議、並びに、年明けに開催予定の第３回委員会の場におきまして、委員の皆様に御意見を頂戴しながら決めさせていただきたいと考えておりますので、何卒よろしくお願いいたします。

以上で、私からの説明を終わらせていただきます。

髙木主任（学芸員）　続いて、市民協力員及び調査員の活動について御説明いたします。

今年度、体制といたしましては、市民協力員が２名、閑野さんと美谷島さんのお二人に、市民のお立場で市史編さんにご協力をいただいております。また、専門的な見地で、調査員として、柏木さんに現在は資料調査等の活動をお願いしております。事務局としては、まずこの体制は維持しつつ、市史編さんの今後の活動、発展を見通しながら、この方々のご協力をいただきながら市史の調査を継続していきたいと思っております。こちらの方々のお力を得て、今後も市史編さん活動を継続して進めてまいりたいと思っております。

以上です。

根岸委員長　ありがとうございました。

２点、お話しいただきましたけれども、先日、編集委員、特に市史のところ、通史の編集を担当した委員が集まりまして、別添資料で非常に丁寧な資料を事務局のほうから作っていただいて、それを基に話し合いまして、今のところ、市史の前のほうにはあるものは、八王子市史ですとか、あるいは武蔵野市史、それから千葉市史、国分寺市史、福岡市史などのブックレットとか、あるいは簡易版をある程度示していただきながら、それぞれの特色について説明をいただき、それから、もう一つは、子ども市史というようなものが各市で出ていて、岩沼市史、金沢市史を参照しながら、市民向けのダイジェスト版、それから、もう一つは子ども向けの子ども市史、それぞれの差というものを検討させていただいて、特に子ども市史の場合は、やはり学習指導要領ですとか、あるいは教科書の単元などを意識しながら書かなければいけない、そういう中で、まずダイジェスト版を作っていって、それも、今の傾向の中で、簡易に分かりやすいだけではなく、目に見えるような、そうしたものを作っていったらどうだろうかというような話をいたしました。

それから、もう一つ、重要なのは、そこではデジタルアーカイブ、ネットによる検索機能、そういうものをもっと活用できるようなことにするというような話もさせていただきましたが、これは市や教育委員会の方針と合わせて考えなければいけないというようなことで、とりあえずは、まずダイジェスト版を、市民に興味のあるような形で作っていったらどうだろうかというような話をさせていただきました。

また、子ども市史については、やはり学校教育の現場にいる先生方に

も関わっていただきながら、ここはきちんと考えていく必要があるのではないかというような意見も受けたところであります。

会議にご出席されていらした牛込先生、中嶋先生、何か補足すべき点はございましたでしょうか？

牛 米 委 員　そうですね、特に私から補足はないのですが、他自治体の事例等につき、俯瞰的に分析できる資料を事務局から示していただき、今求められているもの、今我々ができるもの、という観点で話し、ビジュアル版というような形で、もう少しページ数の少ない形で、通史を読まなくても分かるような、そういうものがいいのでは、という話をさせていただきました。今、子ども市史というような話が出ましたが、特に日高先生は教育現場で教員をされておられますから、今の先生方との関係や、教育等について調べた上で書いていく必要があり、その点からも順番的にまずビジュアル版が先になるのでは、というような話をしましたので、特にいいと、今のご説明に付け加えることはありません。

根岸委員長　ありがとうございます。

中嶋先生、どうですか。

中 嶋 委 員　私も特に補足はありませんが、「私たちの小金井」の現行版、「わたしたちの福岡市」等を分析すると、全部、統一単元となっており、同時に教え方についても明示されており、「子ども市史」についても同様の扱いを前提とすると、かなり大変で、現場の先生方との協議や教育指導要領の分析も必要となり、実現できないということではありませんが、かなりの時間を要する、という感じがしたということです。学校の先生にとっても、どこでどうしてどういうふうに子ども市史を使っていいか分からない、という話もある、とのことでしたので、やはりビジュアル版を先にしたほうがいいのではないか、と考えます。

根岸委員長　ありがとうございました。

編集委員会議では、そのような話が出て、まずはデジタル版を来年度以降、編集に着手できればいいのではないかというような話になりましたが、井上先生、大熊先生、何か感じたところでもあればお願いできればと思いますが。

井 上 委 員　この資料を見て、子ども市史の実情を初めて知り、大変良い印象を受けましたし、大熊委員が子どものために、というのを前から言ってくださっているので、いつかはきちんとした形のものが作れたらいいな、と考えております。デジタルのバージョンも、そのほうが見やすいだろう、と思いますので、見栄えのいいもの、面白そうなところをピックアップしてみるのもいいかなと思いました。

根岸委員長　お願いします。

大 熊 委 員　実は、午前中に前原小学校の教育委員会訪問に行って、全学級の授業を見せていただきました。前原小というのは、全国的にも有名な、コンピュータを積極的に活用している学校の一つなのですが、全学級、全ての学級でコンピュータを使った授業は行っています。その使い方も多様で、いわゆる調べ学習だけじゃなくて、情報交換であったり、自分の意

見の表明であったり、様々な用途で使っているのですが、子どもたちが器用にコンピュータを使いこなしている様子を目の当たりにして、改めて大変驚きました。

お願いなのですが、学習指導要領等との兼ね合いももちろんありますが、「子ども市史」は子どもたちが小金井の歴史に興味を持つ入口になるものだと思います。ですから、個人的には「子ども」と銘打たなくてもいいのかな、という気がします。今まではやはり子ども用の資料を作りたい、というのは頭にあるのですが、小金井市史の入口をまず作っていく、そして、大人も子どももそれを見ることができるようにする。そういうものができれば、それはきっと世代を問わず、多くの市民にとって見やすい、興味を引く資料になるのでは、という感じは、今日の授業を見ていて感じました。

確かにその一部は「子ども向け」になっていてもいいと思いますが、全部を「子ども向け」とするのではなく、世代を問わず興味を持った人皆が見ることができるようにする。それによって入口をもっと広くできれば、より多くの人に小金井市史に興味を持っていただけるのではないか、と思いました。

そして、「ビジュアル」という話がありましたが、文化財センターにもたくさんの資料があって、なかなか市民の皆様にご覧いただけない部分があるので、そういったものの紹介や、埋め戻しした様々な埋蔵文化財の写真もあるので、そういうものをしっかりと見せていくということも必要ではないか、と思いました。

時間がかかるとは思いますが、少しずつでも進めていければ、と考えています。よろしくお願いいたします。

根岸委員長　ありがとうございます。お二人の先生からの貴重な意見いただきましたので、取りあえず今後の事業展開につきましては、以上のような形で、今後、進めていきたいと思います。

それから、市民協力員及び調査員の活動について、何かご意見、ご質問はございますか？長い間、続けていただいているもので、これから成果をどのように出していくかというのが問題になるかと思いますが、今までいろいろ、畑野さん以来、様々な資料を作っていただいたりしながら、市史で十分に活用したかというと活用できていない部分もあるとは思いますので、今後、それをどのような形で公開していくかというのも問題になるかと思いますが、何かご意見、ご質問があればよろしくお願いします。

中嶋委員　その話に関係しているか、ちょっと分からないですが、公開ということになると、デジタルアーカイブみたいなものを行ったらどうかと編集会議では意見が出ています。現状、時期は未定ではありますが、今後、お届けできるのかなとは思います。

根岸委員長　そうですね。デジタルアーカイブみたいな形で公開するというのは、今後、どうしても必要になってくると思いますが、やはりその際に人権や、個人情報等の取扱いについて、もう一度、見直した上で配慮しなが

ら公開していかなければいけないと思います。
　ただ、今まで精力的にやっていただいたのが日の目を見ないままになっている、というのはちょっともったいないなと思っております。
　他に何かございますか？よろしいでしょうか？

大 熊 委 員　今のデジタルアーカイブのことに関してですが、過日参加申し込みを受付した文化財講演会については、コロナ禍であったとしても人数がそれ以上でお断りをするような状況であった、と報告を受けており、小金井市民の皆さんの、市の歴史のことに関する関心の高さを改めて感じたところです。市史に関して高い関心をお持ちの市民の皆様に、今ある文化財について、すべての情報を提供できているわけではない、というのが事実でありまして、今後、デジタルアーカイブというようなことも含めて検討していただくことができるのではないかと思っていて、教育委員会でも、実はサーバーを新しく替えて、全部、ウェブ上にしましたので、その点ではあまり制限なくやろうと思えばできるようにはなっていると思いますので、そういうことも頭の片隅に入れておいていただければ、と思っています。

根 岸 委 員 長　ありがとうございます。
　前回のデジタル化の話も少し具体的になってきましたので、ここでは本格的に考えなければいけない状況になるかと思いますので、よろしくお願いします。

大 熊 委 員　デジタルアーカイブに関する技術的な進歩は目覚ましく、４Ｋはもはや当然であり、画像の回転も可能になるなど、手に取るように見ることが可能になっています。もちろん、実物を間近で見ることが１番良いことは当然なのですが、市史に興味を持っていただく入口の間口を広げる、という観点では今後活用していきたいと考えています。

根 岸 委 員 長　ありがとうございます。
　他にこの件についていかがでしょうか？よろしいでしょうか？

委 員 全 員　（特になし）

⑵　古文書調査及び市史編さん資料集について

根 岸 委 員 長　では、⑵の古文書調査及び市史編さん資料集について、お願いいたします。

高木主任（学芸員）　私から説明いたします。
　小金井市史編纂事業の中で中心的なのが、古文書の調査、報告の作業になるかと思います。この作業は昭和４０年代から継続しており、その結果を市史編さん資料集として刊行していて、現在、第６１編まで刊行しております。これほど長期に渡り継続している事業はなかなかございませんので、今後も中心的な事業として取り組んでいきたいと思いますし、現在は、梶野家文書、梶野町にあります梶野家がお持ちの梶野家文書に関する調査を進めています。こちら、文書の数で言いますと１，３００点ほどございまして、現在、根岸委員にご協力をいただきながら調査を進めておりますが、現状の進捗状況としては半分程度であり、今後も、

残りの部分について調査を進める必要があります。その調査、報告した暁には、刊行物としての市史編さん資料というところに結びつけていくわけです。こちらも、今後、６２編、６３編、６４編という形でまた続くものとなりますので、大事な作業になりますし、梶野家文書以外にも相当量の古文書を所蔵しておりますので、今後も計画的に着手していきたいと思っております。

以上となります。

根岸委員長　この件について、ご意見、ご質問はございますか？

今、資料集は何編までいきましたか？

髙木主任（学芸員）　６２編です。

根岸委員長　昭和４０年代からこれだけの長期間続いている、というのは、少なくとも多摩地域では他自治体にはない事例であろうと思いますので、今後も継続していければ、と思っております。

他にこの件についていかがでしょうか？よろしいでしょうか？

委員全員　（特になし）

４　報告

⑴　梶家文書の寄託について

根岸委員長　それでは、「４　報告」に移ります。「⑴　梶家文書の寄託について」を事務局から説明をお願いいたします。

髙木主任（学芸員）　今年の７月に梶家から文書資料の寄託になります。経緯としては、所有者から、市の方でぜひ活用して欲しい、というご意向をいただき、現在、お借りした資料を市の方で保管・内容を点検中でございます。

梶家については、小金井の前身の小金井村、もっと昔ですと江戸時代の上小金井村の地主などを務めた梶家のお持ちの文書類で、小金井の中でも歴史的にかなり大切な文書が残されています。

その重要性から、１１月より文化財センターにおいて開催させていただく企画展において、「梶家の絵図」と銘打ち、一部の絵図類の紹介という形で、初公開という形で展示します。

本展をきっかけとして、梶家文書に光を当て、梶野家文書と合わせて、今後調査をしていきたいと考えております。今後、何らかの作業を行った際には、また報告させていただければと思います。

根岸委員長　ありがとうございます。

梶家文書は、恐らく小金井の古文書の中では最も古い、近世初期からの部分が分かる重要な資料ですが、資料の存在自体は分かっていたのですが、なかなか見ることが叶わなかったため、今回の小金井市史にはほとんど活用できなかった事情があります。ただ、梶家というのは中世から小金井に居住しており、また修験なども行っていたことから、修験としての光明院文書は別に残っていたのですが、そうした旧修験で、近世になってから、修験でもある家と、名主としての家に分かれていくような、そんな家でしたので、小金井の中世から近世後期、さらに近世を考える上で重要な資料だったのですが、これで、今回、

寄託されるということですので、見ることができるということで、小金井の歴史として新しいところが付け加えられるのではないかと思っております。

市史の作成に携らせていただいていると、本ができた後、重要な古文書が公開されたりすることが多くあり、今回小金井もそうなった、それは残念な思いもありつつもうれしいことでもありますので、次の何十年後かの市史にはこれがさらに活用されて、新しい市史ができるのではないかとも思っております。

その前に分かるところはどんどん解明していきながら、一方で公開し、また一方で、それを集大成するようなことで何十年後かに新しい市史ができれば、新しい市史の意義もあるのかなと思っております。

高木主任（学芸員）　令和４年に発掘調査を行った平代坂遺跡の調査現場に隣接しているのが梶家の屋敷でして、平代坂という名称は、梶家のご先祖の「平太夫」という方の名前から取ったというところで、そういう意味で遺跡の調査結果と文書調査がうまく融合できれば、と思っていますので、今後、注目すべき地域と思っております。

牛米委員　これは、梶家文書というのは、目録などは整理されているのでしょうか？

高木主任（学芸員）　昭和４０年代の事業で目録化はしています。内容精査は十分にされておらず、昭和期の市誌編さん事業以降、内容を確認させていただくのは初めてです。

根岸委員長　昭和４０年代の市史では少し使われていますが、全体像は見えていなかった、というのが実情です。

牛米委員　以前、市史編さんに関する協議を行っていた際にも話題に上がりましたが、梶家文書に限ったことではありませんが、重要な資料というのは、小金井市では文化財センターで保管、所蔵することになりますから、資料の管理状態について、心配が全くないわけではない。

大熊委員　木造ということもありますし、不安がない、とは言い切れないと考えます。

根岸委員長　文化財センターは登録文化財ではないですか？

関生涯学習課長　生涯学習課長です。

文化財センターは、市の史跡に指定されています。今、牛米委員からご指摘いただいた、文化財センターの今後の在り方につきましては、非常にいろいろなご意見いただいています。と申しますのは、築３０年、４０年を迎えている施設も多く、全体的に更新時期を迎えていることから、「一斉更新」という大きな課題を抱えており、公共施設の在り方自体が、今、非常に大きな問題となっています。ただし、文化財センターが他の施設と違うのは、建物自体が史跡としての文化財だということです。

ですから、現在の文化財センターの建物自体を、取壊す、という話にはならない、と思っています。建替、というのもハードルが高いと考えますので、「史跡としての魅力を維持しながら、老朽化への対応も同時

に行っていく必要がある。」という問題と、収蔵物の問題、これは小金井市に限らず、他市の文化財行政においても共通の課題ではありますが、収蔵物が増えすぎて、保管スペースがなくなってきている、という問題を抱えています。このうち、収蔵物については、新たな面積の確保、というのが一番の解決策となると考えますが、それが現実的に難しい場合は、処分または譲渡、という形も取らざるを得ないのでは、と考えています。

その場合、基本的には民具について、劣化の度合いが酷いもの、同じ道具が複数あるもの等から手離していく、という形になるのでは、と考えておりますが、今後のセンターの在り方というのは、今、鋭意検討してございますので、また何かご報告できることがあれば、その都度、ご報告させていただきたいと思います。

牛 米 委 員　施設の問題、というのは金銭的な面でも大きな話になるので、難しい問題であることは認識しているのですが、それはさておき、直接的な問題として、文化財センターにおける資料の保管状態について確認させていただきたかった、というのが質問の趣旨です。

一方で、大嘗祭の際の建物というのは、みんな、払い下げられており、意外と残っていない、という話を建築の専門家から聞いたことがあり、やはり、建物自体に関する分析も必要な建物であると考えています。

関生涯学習課長　昭和３年の昭和天皇の大嘗祭の際の建物が下賜され、それが長い歴史を経て、現在に至っているのですが、文化財センターとしての歴史は３０年程度ですが、建物としての歴史は９０年近いということ、また、大嘗祭の際の建物で、現存しているものはあまりない、ということも踏まえた中で、在り方を検討していく必要がある、というのが大きな課題であると考えています。色々と難しい問題ではございますが、またぜひとも先生方のご意見も参考にさせていただければ、と考えています。よろしくお願いいたします。

大 熊 委 員　今、文化財センターの話が出ましたが、文化財センターには民具とか昔の農機具がたくさん置いてあります。そのため、小学校４年生の児童が、昔の暮らしについて勉強する際の、ちょうどよい教材になっていました。そのため、以前は多くの子供たちが見に行っていたのですが、最近は江戸東京たてもの園にしっかりとした農家があり、その場所に農機具が置いてあって、触ることも可能になっていて、いろりで火もたいているので、やはりそちらの方がわかりやすい、伝わりやすい、ということもあり、市立小学校９校中、文化財センターに行っているのは２校だけで、残りの学校は全部、江戸東京たてもの園に行っているのが実情です。

ですので、昔の土器類は引き続き文化財センターで保管しますが、保管スペースの面で一番広い面積が必要になる農機具等の昔の道具類は、一定、役割を終えたものとして、江戸東京たてもの園に寄贈させていただく、という考え方もできると思います。

牛 米 委 員　今、都内のあらゆる文化財展示施設において、一番大きな課題になっ

ているのが民具の取扱いについてです。保管スペースが必要になるので、例えば唐箕などを多く寄贈を受けても保管できず、申出を断らざるを得ないことや、そもそも既に保管しているものをどう取り扱っていくのか、というのは、民俗専門の学芸員の方々から聞く切実な話です。

根岸委員長　特に機織機などは、壊れても修理の仕方が分からないとか、持っていても使い方が分からない、というのが現実です。

中嶋委員　文化財センターに展示されている機織機は、現在も使用しているのではないでしょうか？機織り関連のサークルが使用している、という話を聞いた気がします。

髙木主任（学芸員）　常設展示室にある機織機は現役です。市内の機織サークルのような、市民の方の力でそういう教室なんかも開くこともありますので、使える教材という形で活用いただいています。

大熊委員　すごく難しい。維持費を考えたら、１１校のうち２校しか来ない、という実情に鑑みると、展示、という点だけで考えると、大変贅沢な施設になってしまっている、という見方もできてしまいます。ただし、一方で、梶家の絵図のような特別展示を企画したり、それらの資料を紐解いていく、という仕事は文化財センターの職員が行っていますので、その仕事とその展示物というのはやっぱり分けて考えていく必要がある、と思っております。

根岸委員長　「⑴　梶家文書の寄託について」について他にいかがでしょうか？よろしいでしょうか？

委員全員　（特になし）

⑵　多摩郷土史フェアについて

根岸委員長　では、「⑵　多摩郷土史フェアについて」をお願いします。

碓井文化財係長　それでは、多摩郷土史フェアにつきまして、私のほうからご説明させていただきます。

新型コロナウイルス感染症の感染拡大が発生した令和２年度以降、感染拡大防止のため、多摩郷土史フェアにつきましては開催を見合わせてまいりました。今年度につきましては、主催者の東京都市社会教育課長会文化財部会におきまして、開催の可否について慎重に検討いたしました結果、令和５年１月２１日土曜日、２２日日曜日の２日間、３年ぶりとなる多摩郷土史フェアを開催させていただくことが決定いたしましたので、ご報告させていただきます。

なお、会場につきましては、従前どおり立川市女性総合センターアイム１階、また、開催形態につきましても、従前どおり各市の市史・文化財関連書籍の展示及び対面販売となります。

詳細につきましては、今後、文化財部会の内部に設置する担当者連絡会の場で決定していきますので、遅滞なく広報させていただきたいと考えております。

以上で、私からの説明を終わらせていただきます。

根岸委員長　ありがとうございます。

やはり多摩郷土史が一堂に集まるというのは、様々な郷土史に対する情報の中では貴重なものだと思いますので、開催されることは大変喜ばしいと思います。

本件についていかがでしょうか？よろしいでしょうか？

委 員 全 員　（特になし）

５　その他

根岸委員長　それでは、「⑶　No.２２遺跡の現場説明会について」は、最後の議題とし、「５　その他」を先に議題としたいと思いますが、その他について事務局で何かありますか。

関生涯学習課長　特にございません。

根岸委員長　先生方のほうで何かよろしいでしょうか？

委 員 全 員　（特になし）

６　次回の会議日程候補

根岸委員長　それでは、「６　次回の会議日程候補」につきましてお願いします。

碓井文化財係長　それでは、次回の会議日程につきましてご説明させていただきます。次回、第３回、今年度最後の市史編さん委員会につきましては、令和５年２月の開催を予定してございます。通常、市史編さん委員会、毎回月曜日の１０時からという時間帯に開催させていただいてございますので、一応、候補日といたしまして、２月６日、１３日、２０日、２７日と書かせていただいてございますが、もし、本日、この場で委員の皆様の御予定、お決まりになるようでしたらこの場で決定させていただきますし、また、ちょっと持ち帰りたいということで、御意向の方いらっしゃれば、後日、メールにてご照会させていただきたいと思いますがいかがでしょうか。

根岸委員長　２月２０日か２７日でいかがでしょうか？

委 員 全 員　（異議なし）

根岸委員長　それでは、２月２０日か２７日のいずれかということで、本日ご欠席の日高先生に連絡取っていただいて、決定していただければと思います。

碓井文化財係長　ありがとうございます。

４　報告事項（残分）

⑶　No.２２遺跡の現場説明会について

根岸委員長　それでは、「⑶　No.２２遺跡の現場説明会について」につきましてお願いします。

碓井文化財係長　それでは、No.２２遺跡現場見学会の説明会につきましてご報告させていただきます。

No.２２遺跡につきましては、市内本町４丁目の本町住宅敷地内に存在する遺跡であり、東京都住宅供給公社による本町住宅の建替工事に際して、縄文時代及び江戸時代の遺構が発見されております。本遺跡につ

きまして、遺跡の発掘作業を担当する東京都埋蔵文化財センター主催で、敷地管理者の東京都住宅供給公社及び東京都教育庁の協力の下、去る１０月２０日木曜日、２１日金曜日の２日間、遺跡現場説明会を実施いたしましたので、その結果につきましてご報告させていただきます。

１日目の１０月２０日木曜日につきましては、近隣の市立小学校、第二小学校及び本町小学校の２校の６年生の皆さん、合わせて約１７０名に見学していただきました。当日は、東京都埋蔵文化財センターの現場担当者の説明による遺跡現場の見学のほか、現場で発掘された縄文式土器、石器の展示及び、他現場のものでありましたが、市内で発掘された縄文式土器の破片を組み合わせ、当時の形を再現したものの展示を行い、実際に土器に触れてもらいました。２日目の１０月２１日金曜日につきましては、近隣住民の方を中心とした一般の方に御見学いただきました。

広報につきましては、主催者の東京都埋蔵文化財センターのほうで、番地内及び近隣にお住まいの皆様にチラシ配布によるお知らせをさせていただいたほか、市ホームページによる広報を行わせていただきました。平日昼間の開催ではございましたが、天候にも恵まれ、１日で３２４名の方にお越しいただくことができ、小金井市内にお住まいの皆様の郷土史に関する関心の高さを改めて裏づけることができたほか、終了間際にはランドセル姿の近隣の小学生の子供たちも多数来てもらうことができました。

内容につきましては、１日目と同様、東京都埋蔵文化財センターの現場担当者の説明による遺跡現場の見学、現場で発見された縄文式土器、石器の展示及び市内で発掘された縄文式土器の当時の形を再現したものの展示を行い、実際に土器に触れてもらいました。

なお、本市では、生涯学習課の職員数名も現場に立ち、参加者の皆様の誘導や受付、展示物の説明等、協力させていただきました。

市といたしましては、平日、しかも急遽の開催であったにもかかわらず、多くの明日の小金井を担う子供たちを含め、２日間合計で約５００名の方に貴重な経験をしていただくことができたという点では、一定の成果はあったものと考えています。

以上、私からの説明を終わらせていただきます。

なお、本日、資料でお配りさせていただいております現場説明会の資料、こちら、２日目の１０月２１日の金曜日の際にご参加の皆様に受付の際にお配りさせていただいたものになりますので、ご参考によろしくお願いいたします。

以上です。

根岸委員長　ありがとうございました。

これにつきまして、何かご意見、ご質問などいかがでしょうか？

高木主任（学芸員）　東京都作成の資料にほとんど内容は載っておりますが、今回の調査では、時代としては縄文時代、江戸時代、戦後間もなくの頃の開拓のころの遺跡となりますが、何よりも、今回、小金井市で多い野川ではなくて、

仙川という場所において遺跡があるということは非常に重要な意味を持ちます。現在、遺跡地図の中では、仙川流域には１個だけ、No.２２遺跡があるのみですので、今後、仙川流域における遺跡群の掘り出し、洗い出しというところでは、ある意味、スタートなのかなと思っております。

ですので、場所によってはまた別の時代のものや、昭和初期の陸軍に絡むような、そういう遺構も出てくるかもしれませんので、野川の河辺以外の場所には遺跡がない、ということではない、と再認識したところです。

根岸委員長　ありがとうございます。

面白いですね。宝永の富士山の噴火の火山灰が畑の畝の間に埋まっているというのは、もう小金井の台地の下からどんどん上がってきて、１８世紀の初めにはあの辺りまでもう開発が進んでいたというのが分かる状態ですし、それから、もう一つは、これ、畝間というのは畑の境ではないですよね？耕作地であった場合、どんな作物を作っているのか、あるいは、土壌分析や花粉分析を行えば、宝永あたりの、開発からまだ何十年もたっていないような時期の作物だとか耕作の在り方がもしかすると分かるかもしれないし、江戸時代の生活にとっても、重要な資料提供もできるかもしれない。そんな印象を受けました。

宝永の時代は、宝永山ができて、富士山の噴火によって、東側は何メートルも埋まってしまった時期ですから、畑の耕作が一時できなくなっていたと思われます。それを再開発して、その直後くらいに享保の新田開発が始まる、という時代背景を考えると、非常に貴重な遺跡ですし、遺物の分析が重要になってくると考えます。

大熊委員　畝間は掘り返されなかったということは、そこはすぐ使われなかったということなのでしょうか？

根岸委員長　そうですね。

大熊委員　そうすると、その下の土を調べれば、何を植えていたか分かる可能性があるということですよね。

根岸委員長　そうですね。水が多少あって、湿気が他の台地よりあるので、耕作には適した土地　であったと思いますが、この当時、畑がどの辺りにあったか、何を栽培していたのか、ということは全くわかっていません。

粟とかヒエとか、初めはそういうような雑穀類で、麦までいっているかどうかは分かりませんが、種子や花粉等が遺物として発見されれば分析も進むと思います。

宝永の大噴火が１１月２３日なので、農作物の収穫は終わっていたと思われますが、調査の手法次第ではいろいろ分かってくると思います。

本件について他にいかがでしょうか？よろしいでしょうか？

委員全員　（特になし）

関生涯学習課長　いろいろ貴重なご意見、どうもありがとうございました。

では、以上をもちまして、第２回の市史編さん委員会をこれで終了させていただきたいと思います。本日はどうもありがとうございました。